

者

理

テ諸君

譯

## ◎黑色素肉腫ノ一例

會員 飯森益太郎

黑色素肉腫ハ、肉腫ノ多數ナルニモ係ラス、比較的稀有ナル腫瘍ニシテ、Lebert氏ノ調査ニ依レハ一、二%弱ニ當レリト云ヘリ本邦ニ於テハ精細ナル統計ナキカ故ニ未タ其多少ヲ知ルニ由ナシト雖モ、金澤病院ニ於テ既住五年間ノ經過録ヲ鑿索スルニ一モ之レカ記載アルヲ見ス、又之レヲ木村教授ニ問フ、氏カ金澤ヘ赴任セラレシ以來肉腫患者ヲ診セラレシヲ殆ント百名ニ近シト雖モ色素性ノ者ハ一回モ之レヲ見スト云ヘリ、左レハ該腫瘍ノ有觸レタル疾病ニアラサルヲ知ルヘキナリ。

近頃大聖寺病院醫員坂井廻太郎氏ハ移轉性淋巴腺黑色素肉腫ノ一患者ヲ手術シ摘出セラレタル病の組織ヲ其病床經過ト共ニ木村教授ノ下ニ送ラレタリ。今教授ノ許可ヲ得テ鏡査成績ト共ニ之ヲ報スルハ一ハ以テ坂井

氏ノ好意ニ酬ヒ一ハ以テ興味ヲ會員諸君ニ頒マンカ爲  
メノミ

色素性肉腫 Pigmentsarcom, Melanotische Sarcom, Melanom,  
Melanosarcom, Sarcoma melanoticum. トハ肉腫細胞中ニ  
黃、褐或ハ黒色素ヲ沈着スル者ニシテ通例ハ擴汎性ナ  
リト雖モ時トシテハ不平等ニシテ或部ニハ存シ或部ニ  
ハ存セス所謂斑點狀ヲナス者アリ而シテ此種ノ肉腫細胞  
ハ多ク紡縷狀ヲナシ脈絡膜及外皮ニ來ルヲ最モ多シト  
ス、色素ハ其間質ニ存スルヲ稀ニシテ胞体中ニアリト  
雖モ核内ニハ存スルコトナシ

色素ノ肉腫細胞中ニ來ルコトニ就テハ諸説芬々トシテ一  
定セス Brinbacher氏 (Ocularbl. f. Augenhilf. 1834. pag. 38)  
ニ依レハ此褐色素ハ赤血球ヨリ來ル者ニシテ血球ノ滲  
漏ニ依テ其色素ハ細胞中ニ吸攝セラル、者ナリト云ヘ  
リ又 Creighton 氏ノ説ニ從ヘハ色素ハ結締織ノ胎生官能

ノ逆行ニ由ル者ナリ故ニ色素性肉腫ハ必ス結締織ニ基  
クト云ヘリ、Nancki及ヒ Baclerzノ兩氏 (Archiv f. Path. XX.  
pag. 376)ハ人ノ色素性肉腫ニ就テ化學上ノ精細ナル試  
驗ヲ行ヒシニ該色素ハ毫モ鉄ヲ含有スルコトナクノ只多  
量ノ硫黃ヲ含ムノミナリト而シテ之レヲ phymatorhus  
ニト名ケタリ又 Virchow 氏ノ檢案ニ由レハ多クノ肉腫  
ハ色素ノ他尙ホ一種固有ナル礎色ヲ有スル者ニシテ  
bert (Physiologiepathologie 1845. EE pag. 176. Virchow's  
Archiv. XIII) 氏ハ之レヲ黃綠癩 Chloromト名ケタリ蓋シ  
之等ハ色素性ノ者ニ算入スヘカラサルナリ  
此癩ノ原因ニ至テハ未タ詳ナラスト雖モ色素ニ富ミタ  
ル部分ハ之レカ誘因トナルヤ疑ヒナシ之レ脈絡膜及外  
皮ニ多キヲ以テ知ルヘシ又母斑殊ニ其黒色ナル者ハ屢  
々之レカ原因トナルコトハ已ニ諸君ノ知ル處ナリ、男女  
及年齡ノ關係ハ男子ハ女子ニ比スレハ二倍多ク且ツ中

老乃至老人ニ生スルヲ多々ナリ

坂井氏ヨリ寄送セラレタル患者ノ病床經過ハ左ノ如シ  
 ……患者ハ体格健康ナル一男子ニシテ宮本某ト呼ヒ本年四十四歳ナリ、農ヲ以テ業トス生來極メテ強壯ニシテ又遺傳病ナシ

明治十六七年ノ頃左足内下面ノ皮膚ニ小指頭大ノ扁平藍黑色ノ母班ノ如キ者ヲ生セシト雖凡別ニ障害ナキヲ以テ放置セリ然ルニ同二十年ニ至リ漸ク碁石大トナリ腫起固結シテ表面ハ少シク糜亂シ草履ノ摩擦ニ由テ時々出血セリ

明治二十二年十二月頃ニ至リ己ニ鷲卵大ノ無痛性硬固ナル腫物トナリ其表面ハ破潰シテ黒汁ヲ漏セリ依テ弊院(大聖寺病院)ニ於テ切除(其際黑色ノ一部殘留セリ)シ二週間計ニシテ半治退院セリ

同二十三年三月登山伐木ノ際甚シク勞働セシニ同側ボ

―バルト氏鞞帶ノ下部ニ於テ無痛性ノ硬キ移動スル示指頭大ノ腫瘍ヲ皮下ニ觸知シ同六月ニ至リ前切除部ニモ又再發シ故ノ如クナレリ依テ再ヒ切除セリ同年十二月ニ至リ鼠蹊部ノ腫瘍ハ拳大トナリ其尖端破潰シテ黑色ノ内容ヲ出シ足部ノ者又再發セシヲ以テ三ヶ月入院セリ

(現症) 体格可良、鼠蹊部ニ於テ拳大ノ分畫セル不平等ナル硬キ腫瘍ヲ有シ皮膚ニ癒着セリ其尖端三仙迷計圓形ニ破潰シ黑色糜爛狀ノ内容ヲ出セリ、又左足楔狀骨部内下面ニ直徑四仙迷計ノ不正圓形ノ潰瘍アリ同シク黑色粥狀ノ内容ヲ出セリ其周圍及底面ハ限局性ニ硬固不平ナリ

十二月二十九日「コ、ホルム」麻醉中腫瘍ノ長徑ニ沿テ皮膚ノ一片ヲ附着セシマ、切開摘出セリ、腫瘍ノ頸ニハ太キ血管進入セシヲ以テ結紮シ其周圍ニハ一二ノ水

脈腺腫起セシカ故ニ全ク摘出セリ、又足ノ者ハ輪狀ニ皮膚ト共ニ切除シ后防腐帶ヲ施セリ、……寄送セラレタル腫瘍ハ亞爾箇保兒中ニアリ其形卵圓形ニシテ長徑二十三仙迷、横徑十五仙迷重量二百〇八瓦ヲ有セリ之レ蓋シ鼠蹊部ヨリ摘出セラレタル腫物ナリ先ツ刀ヲ以テ腫瘍ヲ横斷スルニ其斷面全ク黑色ヲ呈シ周壁ハ三密迷計ヲ有スル結締織ノ囊ヨリナリ其内壁ヨリ數箇ノ突起ヲ出シ互ニ連繫シテ腫瘍ヲ數箇ニ區劃スルヲ見ル、此劃内ニハ黑色泥様ノ脆キ物質ヲ以テ充タサル之レ即チ黑色素ヲ含有スル細胞ナリ今試ミニ此黑色素泥様物ノ一片ヲ取リ「ツェルツッペン」ニ由テ鏡下ニ檢スルニ大ナル有核紡錘狀細胞或ハ數箇ノ短突起ヲ有スル星芒狀細胞及大圓形細胞ヨリナリ色素ハ胞体中ニアリテ間質或ハ核中ニ存スル者ナシ又更ニ無水亞爾古保兒中ニ侵シタル者ヨリ通常ノ「ア

レパレート」ヲ造ルニ實質ハ破潰シ易クシテ完全ナル者ヲ製作スル能ハス依テ「パラフィン」硬化ヲ用エ辛フシテ一枚ノ標本ヲ造リ之レヲ檢スルニ腫瘍ノ壁ハ結締織ヨリナリ所々二圓形細胞ノ集落スル所アリ其最外層ニハ脂肪細胞ノ混有スルヲ見ル、壁ノ内壁ヨリハ大ナル結締織ノ突起(肉眼ニ由テ見得ル者)ヲ出シ之レヨリ又小突起(肉眼ヲ以テ見ルヘカラサル者)ヲ出シ其兩側ニ殆ント圓柱形ニ近キ有核含色素性ノ大細胞アリテ併列ス但シ壁ニ近キ所ハ規則正シト雖モ中心ニ至ルニ從テ一定ノ規律ナキカ如シ腫瘍ノ何レノ部分ヲ檢索スト雖モ淋巴腺体ハ全ク荒蕪セラレ毫モ其形跡ヲ止ムル處ナシ以上ノ所見ニ依レハ該腫瘍ハ淋巴腺ニ移轉セル黑色性紡錘細胞肉腫ルヤ疑ナシ

附言頃者金澤病院ニ於テ黑色素性癌腫ノ二患者ヲ手

術セリ尙精査ノ後報告スヘシ

望ニ對スル責ヲ防キ且ツ諸氏カ研

ニ掲載セラ

(論説及實驗)

金澤醫學會雜誌

第三卷第二十四號

(四百十三)